氏名	徳 山 勝 之
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1005 号
学位授与の日付	昭和53年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**B型肝炎におけるウイルス抗体に関する研究** **第1編 B型肝炎におけるHBc抗体の検出法とその臨床的意義について** **—蛍光抗体補体法による成績を中心に—** **第2編 B型肝炎におけるHBs抗体の臨床的意義について** **—受身赤血球凝集反応による成績を中心に—**
論文審査委員	教授 大藤 眞 教授 木村郁郎 教授 妹尾左知丸

学位論文内容の要旨

B型肝炎ウイルス（HBV）に対する2種の抗体，すなわち，HB surface（HBs）抗体およびHB core（HBc）抗体の検出とその臨床的意義を中心に研究を行い以下の結果を得た。

すなわち，第1編では，HBc抗体検出法として，感度が鋭敏で，特異性が高く，かつ組織内HBc抗原の検出も可能な蛍光抗体補体法を応用開発した。この方法を用い，各種肝疾患105例を検討した成績では，HBc抗体はHBs抗原陽性例全例に，HBs抗体陽性例の71.4%に，両者陰性例の44%に検出された。また，HBc抗体は肝炎の発症初期から出現し，HBs抗原が陰性化してもかなり長期に持続し，さらに疫学的調査からもHBs抗体と共にHBV汚染状況を知る上で有用であった。以上の結果からHBc抗体は肝炎の予後に直接影響しないHBVの感染抗体として，B型肝炎の感染の有無を知る良い指標と考えられた。

第2編では，HBs抗体を感度の高い受身赤血球凝集反応で，1648検体について測定した結果，肝組織診断の確定した211症例中32.7%にHBs抗体を検出し，そのうちの重症広範壊死を伴う例，活動型の例により高頻度であった。HBs抗体の出現時期は，急性肝炎の回復期および慢性肝炎急性増悪後ないし再燃回復期に多く，黄疸および輸血歴の有る症例に高頻度であり，HBs抗体陽性の例は比較的予後が良好であった。以上より，HBs抗体はHBVの中和抗体と考えられ，予後を知るよい指標と考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究はB型肝炎におけるウイルス抗体について臨床的に研究したものであるが，従来十分確立されていなかったHBc抗体ならびにHBs抗体の検出法とその臨床的意義について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。